

## 一般要望(継続)

要望先：滋賀県土木交通部 都市計画課



# むれやま 牟礼山公園の用地取得および今後の整備等について 【県への要望】

## 要望内容

牟礼山公園は、昭和47年に都市計画決定をされた公園であり、草津市と大津市の両域に跨り、かつ、びわこ文化公園都市将来ビジョンの対象地域内にあるため、県が管理する文化ゾーンと一体的な活用を行うことで、県民の憩いの場として貴重な施設になることから、用地取得および今後の整備や維持管理等を県で対応いただくことについて、特段の配慮をお願いしたい。

## 位置図



## 現状と課題

牟礼山公園は、県から風致公園として都市計画決定をされた都市公園であり、その区域は本市と大津市の間に跨っており、広域的な利用が想定されることから、県において用地取得および今後の整備や維持管理等を行う必要がある。

## 事業実施による効果

文化ゾーンと合せて、県民の憩いの場としての魅力充実を図ることができる。

担 当：建設部 公園緑地課 整備係

TEL：077-561-6963

要望先：滋賀県土木交通部 道路保全課

## 主要地方道大津能登川長浜線若草交差点付近の通学安全対策について【県への要望】

### 要望内容

本市では、通学路の安全を確保するために、関係機関との連携のもと、通学路の安全点検を実施し、早急な対応を図っているところである。

中でも、主要地方道大津能登川長浜線若草交差点付近について、通学路の安全対策の観点からも歩道橋の設置の早期実現について、引き続き、特段の配慮をお願いしたい。

### 位置図



## 現状と課題



信号待ちの児童



大津能登川長浜線の混雑

平成29年4月に、大阪府内にて集団登校で信号待ちをしていた小学生の列に車がつっこむ事故など、児童が通学時に交差点付近で交通事故に巻き込まれるケースについては、あとを絶たない状況である。

若草交差点については、志津南小学校へ登校する約480人の児童が横断しているが、通学時間帯には狭い歩道に信号待ちの児童が多数滞留することとなり、車道を走行する車や歩道を走る自転車との接触事故の危険性が常に高い状態にある。

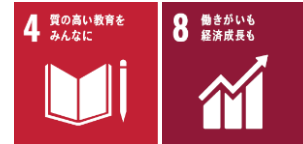
また、現在は歩車分離信号であるが、将来、国道1号バイパスとなると、歩車分離信号でなくなる可能性が高く、交通量がさらに増加し、より危険な交差点になると考えられる。

主要地方道大津能登川長浜線を渡るための歩道橋の設置について、地域からも早期実現に向けて要望が高く、実現に向けての早急な調整が必要な状況である。

## 事業実施による効果

- ・児童が狭い歩道で信号待ちをする必要がなくなり、通学時における交差点での車や自転車との接触事故の危険性が大幅に低下する。
- ・児童の安全だけでなく、一般の通行者の安全確保に加え、付近を通過する車や自転車の安全な通過も同時に確保できる。

担 当：教育委員会事務局 学校教育課 学事・学校保健体育係  
TEL：077-561-2421



## 小中学校の業務改善について【県への要望】

### 要望内容

小中学校の教職員の業務負担を軽減するため、学校の業務改善の推進について、昨年度に引き続き過大規模校に教頭を複数配置いただくよう、特段の配慮をお願いしたい。また、スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーの適正な配置、スクールサポートスタッフの補助拡充など、「学校における働き方改革取組計画」の具現化についても、一層積極的に取り組んでいただくよう、特段の配慮をお願いしたい。

### 現状と課題

学校の業務は増加の一途を辿る中、国・県・市とそれぞれの自治体において学校の「働き方改革」「業務改善」を推進し、各所でその成果が出始めている。

しかしながら、子どもと向き合うための時間や授業の準備、教材研究などに費やすための時間の確保は未だ十分とは言えず、また教職員のワーク・ライフ・バランスの実現も困難な状況である。

こうした状況を改善し、教育の質の向上やワーク・ライフ・バランスの実現を図るために、公立小中学校の性質上、市の取組だけでは実現は困難であり、県による一層積極的な業務改善のための取組が必要不可欠である。

＜県をお願いしたい事項の例＞

- ・ 児童生徒数が1,000人を超える過大規模校における教頭の複数配置
- ・ スクールサポートスタッフの県による配置または配置する市町への補助制度の拡充（補助率の拡充）
- ・ 県が実施する調査、会議、研修の見直し
- ・ 部活動に係る指導員等人的支援の拡大と県による人材バンクの創設
- ・ 学校事務の共同実施を推進するために必要な事務職員の加配

### 事業実施による効果

- ・ 子どもと向き合うための時間や授業の準備、教材研究などに費やすための時間が確保できるようになり、教育の質を向上させることができる。
- ・ 教職員の超過勤務時間を削減し、ワーク・ライフ・バランスを実現し、教員個々の生活自体を充実したものにすることができる。

要望先：滋賀県教育委員会事務局 教職員課、保健体育課

## 養護教諭の人的配置の拡充について【国への要望】

### 要望内容

複雑化・多様化する養護教諭の業務負担の軽減や児童生徒へのきめ細やかな対応のため、正規職員の義務標準法の複数配置基準緩和について、国に働きかけていただきたく、特段の配慮をお願いしたい。

### 現状と課題

養護教諭は、日々の救急処置や保健指導、健康診断の管理、学校環境衛生調査などに加え、不登校児童生徒や特別な支援を要する子どもへの対応、子どもが安心できる居場所としての保健室経営など、その業務は近年、複雑化・多様化している。

また、校外学習、修学旅行への引率や研修等での出張で学校を不在にすることも多く、養護教諭不在の際に起こる怪我、疾病、事故等に対しては、専門的知識を有しない養護教諭以外の教職員が対応している状況であり、専門的知識に基づく適切かつ迅速な対応ができる体制を整える必要がある。

### 事業実施による効果

養護教諭の加配を行うことで、以下の課題解決を図ることができる。

- ・養護教諭が出張等で不在となる場合に相互にサポートし合うことが可能となり、不在時の怪我、疾病、事故等に対し、専門的知識に基づく的確かつ迅速に対応が可能となる。
- ・社会環境の変化とともに児童生徒の心身における健康課題が複雑化・多様化しており、それに伴い養護教諭の業務も複雑化・多様化しているが、複数で対応することで、個々の児童生徒に対して、よりきめ細かな対応が可能になる。

担 当：教育委員会事務局 学校教育課 学事・学校保健体育係  
TEL：077-561-2421

要望先：滋賀県教育委員会事務局 特別支援教育課

## 県立特別支援学校（草津養護学校）の新設分離について【県への要望】

### 要望内容

特別支援教育の充実のため、県立特別支援学校（草津養護学校）の新設分離について、特段の配慮をお願いしたい。

### 現状と課題

#### 【現状】

- ・草津養護学校は児童生徒数が県内で2番目に多い学校であり、令和5年4月1日時点で、369名のうち172名が草津市の児童生徒である。
- ・医療的ケアの必要な児童生徒の教室の前には、十分な教室の広さが確保されていないため、車いすやベッド等が廊下に並んでいる。
- ・小学部、中学部の遊び場が中庭しかない。
- ・教室が足りないため、特別教室を教室として使用している。
- ・1時間以上バスに乗って通学している児童生徒がいる。

#### 【課題】

- ・仮設校舎の増築後も、まだ教室の数が足りない状況である。
- ・スクールバスや放課後デイサービスの車を駐車するスペースが少なく、前庭に駐車しているため、危険である。
- ・大半の児童生徒がバスで通学しているが、バスの台数も少なく、校区も広いため、1時間以上バスに乗って通学をしている児童生徒がいる。
- ・教室前の廊下に車いすやベッドが常時並んでいる状態であり、常時の危険もさることながら、災害の発生時には、さらに混乱が予想される。

### 事業実施による効果

- ・特別の支援を必要とする児童生徒が、安全で安心できる環境の中で、適切な指導を受けることができ、特別支援教育のさらなる充実が図られる。

担 当：教育委員会事務局 児童生徒支援課 児童生徒支援係  
TEL：077-561-2437